

二ツ小屋沢～印通沢

軽井沢(仮称)

1982年10月10日

L:

不動尊の横に車を置いて沢に入る。水はだいぶ冷たくなってきたが、天気は良く、寒いとは思わない。身仕度をして、8時ちょっと過ぎに出発。

樹林帯の中である。クリの実が落ちていて、秋を感じさせる。すべりやすいナメ

を通り過ぎた所で、沢の様相が険悪化してきた。沢がぐっと暗くなって、廊下状となり、砂防ダムが2つ。左岸から高捲いてゆくが、この分では期待がもてそうだったのに、この先は全く平凡となってしまう。

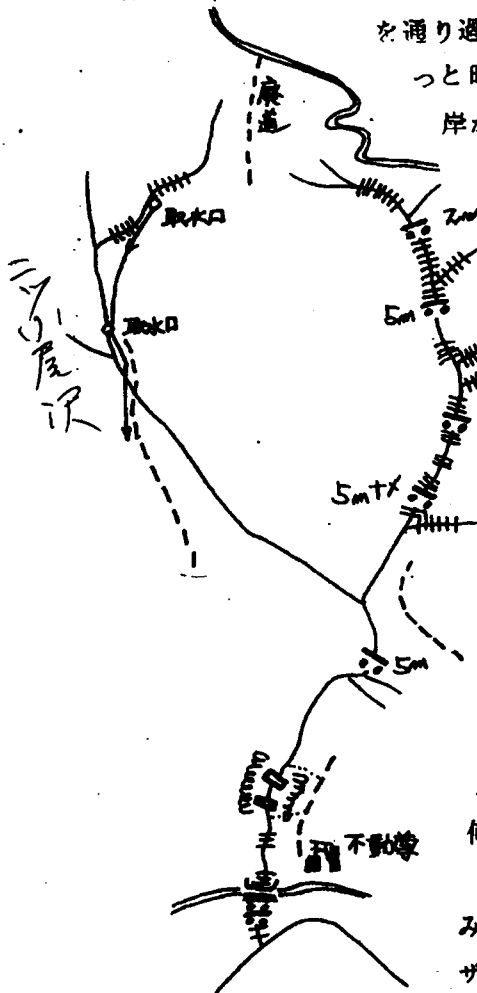
8:25、左岸の樹林帯にふと目をやったところ、カモシカが2頭じっとこちらを見ているのではないか。向こうの方が先に気がついて、こちらの動きをみていたようだ。こちらもち立ち止まり、じっと見ていると、ゆうゆうと立ち去っていった。

沢は依然平凡。しかもカレ沢となってしまう。ようやく出てきた5mの滝は、簡単に直登。すぐ二俣になる。ここに自然石か人工の記念碑なのか判断のつきにくい、50cmほどの高さの石がある。片面だけが平らで、人工物のような気もするが、そうだとすると、誰が何のために置いたのだろうか。

左俣に入る。フッシュユがひどくなる。アケビをみつけたので、木登りをしてとった。またたくまにザックに入りきらなくなる。秋の沢登りは山の幸にも魅力がある。

依然平凡な沢筋が続く。右岸にふみあとが見えてきた。はっきりしたふみあとである。どうやら沢ぞいに走る農業用水の取水パイプの管理用に使われているらしい。よく手入れされている。2本のパイプのそれぞれの取水口まで続いていた。

沢は依然平凡なままもう終わりに近づいた。フッシュユもひどくなり、尾根に出ようと右手にやぶをこぐ。すぐに廃道に飛び出し、県境義線の林道は間近であっ



軽井沢(仮称)

た。

葎線ぞいの林道を少し歩いて13時下降開始。少し下るとナメが出てくる。左俣とちがって少しは期待できそうだ。まず最初の2mをクライミングダウン。そのあとに5mクラスのが3本。いずれも簡単に下降でき、沢としてはそんなに印象深いものではないが、左俣があまりにも平凡であっただけに、一応気持だけはなぐさめられた。15:05二俣着。それから1時間程で今朝方出発してきた不動尊に着く。おみやげにアケビとヤマブドウをいっぱいもって。 (記・

出合・不動尊(8:05)——二俣(9:05)——沢終了(12:40)——下降開始(13:00)——二俣(15:05)——不動尊(16:00)

葎ヶ沢
板橋沢(仮称)

1982年9月15日

L

国道399号にかかる橋から沢に入る。しばらくはガツチリ石垣とコンクリートで固められた人工河川の中を進む。3mの小滝を越えた所でようやく自然の流れとなった。砂防ダムを越えると5mの滝。これは出だしから調子がよい。右岸にとりつくが、途中でホールドがなくなる。あてにしていた木の枝に手が届かないのだ。仕方がないので、シュリングの先に垂りがわりにカラピナをつけ、投げ上げてひっかけ、それを頼りにして越える。この先は明るくなり、平凡となった。

サルナシがたっぷりの実をつけている。まだ少し早いですが、部分的にうれたものを選んで口にいれる。おいしい。

10m 2段の滝を直登すると、気持のよいナメがあらわれて、沢はまた面白くなる。快適に滑んでゆくと、大岩が行く手をふさぎ、自然の砂防ダムができて、土砂が堆積している。ここが二俣で昼食をとる。

右俣には小滝が連なっていて興味をひかれるが、今日の目的は左俣だ。ずっとナメが続いている。しかし、もう沢幅もせまく、快適さは望めない。ヤブがかぶさってきた。葎線は目の前に見えている。このまま沢をつめてゆくより、植林地

